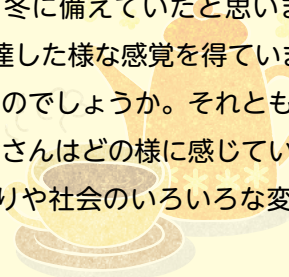


学
科
長
よ
り

教育心理学科長 鈴木 国威

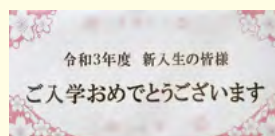
カレンダーも残り少なくなる頃、皆さんはどんなことを考えてお過ごしでしょうか？私は季節の移り変わりが以前とは変わったことを肌で感じております。数年ぐらい前ですと、ある程度の日数をかけて気温が下がっていき、その変化を感じつつ、衣替えやコタツの準備などをして、冬に備えていたと思います。しかし最近、ある日を境に急激に気温が変化し、秋を感じる暇もなく冬が到達した様な感覚を得ています。日本の季節の変わり目は、社会と同じようにニューノーマルになってしまったのでしょうか。それともただ単に私の老化のために気温の変化を感じ取れなくなったのでしょうか。若い皆さんはどの様に感じていますか？皆さんには、自分自身の身体をフルに働かせ、季節だけでなく、身の回りや社会のいろいろな変化に敏感になって欲しいと私は思っています。



入学式

1年 山下真耶

4月1日(木)に入学式が行われました。コロナ禍ではありましたが、感染防止の対策を講じながら対面で実施することができました。当日は、期待や不安など様々な気持ちを持ちながら、入学式に臨んでいました。特に、鈴木教育心理学科長の挨拶の中に『資格を取得し、それを用いることだけが人を支えることではありません。人について徹底的に考え理解することが、人を支えることになり、持続可能性や人間の多様性の構築につながる・・・』とのメッセージがありました。この挨拶を聞いたとき就実大学での学びを通して人を支えることの真の意味を自分なりに考え4年間という限られた大学での学びを大切にしたいと強く思いました。また、対面での入学式であり、これから4年間共に学ぶ学科の仲間たちと直接出会えたことが何よりも嬉しく感じました。新型コロナウイルスの収束が見えない中ではありますが、先生方のご支援のもと、4年間みんなで頑張っていきたいと思えます。



新入生歓迎懇親会

1年生 住田萌々華・井登菜々美



新入生歓迎懇親会が4月23日に開催されました。先生方の自己紹介の後、先輩方に教わりながら、各クラスでハーバリウムのボールペンを作りました。入学してから、クラスの子たちと話す機会はありませんでしたが、相談しながら作ることを通じて、ますます仲良くなれたように思います。

また、SEPの先輩方が企画してくださったビンゴゲームにも参加しました。イヤホンや商品券など豪華な景品の数々に驚きながら、クラスの枠を超えて、笑顔の絶えない素敵な時間を共有することができました。現在は通常通りの大学生活とは異なる状況ですが、新型コロナウイルスが収束し、この仲間と一緒に学び、成長していけることを願っています。



新任教員インタビュー

桑原 晴子 先生 専門：臨床心理学 インタビュアー：後藤優月

桑原先生は箱庭を使用し、イメージを用いた心理療法を専門とされています。高校二年生のときにアメリカに留学をされた際に人種差別が激しかったことにカルチャーショックを受けた経験が心理学を学ぼうと思ったきっかけとなったそうです。座右の銘は「Stay calm and carry on」で落ち着いてやるべきことをやれという意味だそうです。コロナが収束した後はお子さんとスイスにいる友達に会いに行きたいそうです。

先生からの一言 思いっきり遊んで勉強したいこともして、大学生活を楽しんでください。

石井 佳葉 先生 専門：臨床心理学 インタビュアー：岸下留衣

石井先生は「どうしたら心理検査を通してその人を深く理解できるのか」ということを専門に研究されています。先生が心理学を学ぼうと思われたきっかけは、小中学校の頃に保健室の先生やスクールカウンセラーの先生が何をしているのだろうかと気になったこと、大学のパンフレットに掲載されていた箱庭の写真に惹かれたことだそうです。先生は、新型コロナウイルスが収束した後は、ハワイやグアムに旅行に行き、浜辺をゆっくり散歩したいそうです。

先生からの一言 大学・アルバイト・サークル・ボランティアなど、様々な人に触れることでそれぞれの価値観や考え方を学ぶことができます。大学生のうちにぜひ一人でも多くの人に出会ってください。

教育心理学科 10周年記念講演会

1年 大西明日海

就実大学教育学部教育心理学科では創立10周年を記念して、11月20日に講演会を行いました。本学科は2011年に開設され、今年度で10周年を迎えました。

講演会では、創立当初から現在も本学科でご指導が続けられている森教授より本学科の歴史を学びました。また、本学大学院教育学研究科教育臨床心理学コース長の山本力教授をお招きし、「キャリアと自分について考える一本気で念じて動けば、いつかそれに出会える」と題してお話をいただきました。これから人生の紆余曲折に於いても、何を選択し行動すれば自分の生きがいになるのかを考えることの大切さや、何かを始め続けていけば、それがいつか自分になるのだということを学びました。

さらに卒業生や修了生の方々からメッセージを頂きました。そこには大学時代の仲間や先生方との出会いの素晴らしさが綴られており、より一層様々な出会いを大切にしたいと思いました。

今回の森教授や山本教授、先輩方のお言葉を胸に刻み、私たち学生が主体となり本学科がますます発展していき、より良い形で20年30年と歴史を刻めるように勉学や学生生活に励みたいと思います。



就実大学教育心理学科 の振り返り

教育心理学科10年の歩み

2011年度	教育心理学科、教育学部 開設
2015年度	教育学研究科 設置 臨床心理、養護教育、特別支援教育コース
2018年度	公認心理師養成課程 設置
2019年度	特別支援学校教諭教職課程が 初等教育学科に移動
現在に至る	

教育心理学科の目的（開設時）

子どもの心身の発達を
支えケアする教育的人材の育成

教育心理学科の目的（現在）

人の心身の発達・健康を支えケアする
心理師（士）・養護教諭、および
心理学のスキルをもって社会に貢献
できる職業人の育成

取得可能な資格、免許

学科専門科目の履修により
・認定心理士申請資格
・公認心理師受験資格（学部科目）
・養護教諭一種免許状

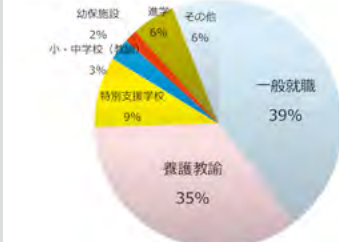
大学共通科目の履修により
・日本医師会認定医療秘書資格、図書館司書など

2018年度入学生まで
・中高教諭一種免許状（保健）、特別支援学校教諭一種免許状

卒業生、資格・免許取得者(2011年度～2020年度)

卒業生	480名
認定心理士申請資格	200名
養護教諭免許状	258名
特別支援学校教諭免許状	71名
小学校教諭免許状	60名
中・高教諭免許状	57名
図書館司書	23名
医療秘書	19名

卒業生の進路内訳



学生生活動紹介

第56回

なでしこ祭

学友会 副会長 学園祭実行委員長
教育心理学科3年 日原 悠



第56回なでしこ祭は、「繋ぐ〜今こそ私たちの心をひとつに〜」をテーマのもと開催しました。テーマにもあるように、実行委員みんなの心をひとつに、助け合いながら学祭を作り上げていきました。今年は準備期間に実習があるメン

バーが多くいましたが、zoomやmeetを使用して会議を重ね例年よりもさらにグレードアップした学祭を皆さんに届けることができたのではないかと思います。今年は例年とは違い謎解きやVR展示を行うなど、オンラインでも学生が気軽に参加出来るコンテンツを取り入れました。

コロナ禍でお客さんを招いて学園祭を開催することは困難でしたが、YouTube配信でのコメントを見てみると、クラブ対抗戦とお笑いライブが1番盛り上がったように思います。

なでしこ祭を作り上げるにあたって、実行委員同士の意見の対立や情報の共有が上手く行かずすれ違いがおこり大変な思いをしたこともありましたが、委員同士で改善策を出すなど協力しながら乗り越えてきました。

学友会のメンバーはとても仲が良く、私たち自身も心をついでからこそ団結して良い学園祭を作れるのではないかと感じています。

来年以降、新型コロナウイルスの拡大が落ち着いたら、オンライン開催ではなく、学生同士が同じ空間を共有し、楽しむことのできる学園祭を開催出来たらと考えています。

皆さんと学園祭でしか体験のできない雰囲気共有し、一緒に大学生生活を楽しむことができればと考えています。



「授業支援ボランティア」

1年 芳岡真友

私は、岡山市内の小学校でボランティア活動を行っています。小学校でボランティア活動をはじめたきっかけは、養護教諭を目指すにあたって学校現場の状況や様子を肌身で感じ、学んでおきたいと考えたからです。主な活動内容は、授業支援です。この活動を通して、児童たちが授業中どのようなことで困っているのかを気づくことができます。

加えて、様々な困難に応じた支援や対応が徐々になくなってきたと感じています。例えば、ノートを取ることに苦手な児童に対しては先生が黒板へ書いた板書の内容をゆっくり読み上げ、ポイントを伝えるようにしています。あるとき、児童がとても嬉しそうに「できたよ!」と私にノートを見せてくれたことがあります。この経験は、私自身もとても嬉しく、子どもたちを支えることへの関心と意欲を一層高めるものでした。

うまくいかないことも多々ありますが、今後も勉学やボランティア活動に励み、知識や実践力を養い、よりよい支援者、そして養護教諭を目指していききたいです。



Web講演会

『DV根絶のために〜私たちができること〜』に参加して

1年 宮武春葉

今回の講演会※を通して、DVの怖さや被害の深刻さを再認識しました。なかでも、デートDVの多さにとても驚きました。私たちが知らないだけで、被害を受けて苦しんでいる人がいるのかと心苦しさを感しました。実際に生活の中で、DVをしない人に見極めや「今自分が恋人に受けている行為がDVに当たるのか」という判断は容易ではないように思います。自分や相手の行動を客観視し、本当に苦しんでいないかどうかを自分自身に問うことが重要なのです。

DVは被害者の将来に大きな影響を与えます。一度つけられた心や身体の傷は簡単に戻ることはないでしょう。サポートセンターVSCOなどの支援機関が存在するものの、その認知度はまだまだ低いように思います。私たちが加害者や被害者、傍観者にならないためには、もっと興味関心を持ってDVのことを知る必要があるのではないのでしょうか。



※(公財)サンフラワー基金20周年記念講演
講師：金重恵美子先生



授業紹介

初年次教育Ⅰ・Ⅱ

1年 中川花琳



初年次教育の授業について紹介します。この授業では大学での学習に慣れ、1年次から意欲的に大学生活にのぞむことが目的です。また社会の基盤となる基礎的能力及び態度を身に付けられるよう大学の学びの基礎であるアカデミック・リテラシーの習得を目指しています。授業では、アカデミックスキルを身に付けることを目標としてレポート作成やディベートに取り組んでいます。グループワークを行い意見交換をすること、お互いに作成したレポートを評価しあうことで自分の課題や新しい視点からの考え方など多くの気づきを得ることが出来ます。私はこの授業を通して大学生の内だけの学びではなく、これから先にも生かしていける能力を身に付けたいと考えています。

カウンセリング演習Ⅰ

2年 藤原未帆

「カウンセリング演習Ⅰ」は、あらゆる対人援助専門職にとって不可欠な技術と姿勢を身につけることを目標に、実践的な演習を行います。特にカウンセリングについての基礎知識や技術を学びながら実際に相手と対話する演習を主に行いました。

4～7人のグループに分かれ、演習ではその中からペアを作りロールプレイを行います。演習内容は聴くとき（傾聴）の姿勢・視線や程よい相槌についてなど基本的なことから、相手の発言に注目し的確に共感を伝える技法など専門的なことも行いました。また、技法などの定義はありますが、人の考え方は様々であり何をどう活用していくか正解がなく見極めなければならないという難しい面も学ぶことが出来ました。

これらを実務経験の豊富な先生から実践的に学ぶことができ、毎回の説明や質問の際には先生の体験談なども交えながら丁寧に解説、指導して下さいました。

私自身受講し、職業関係なく日常生活にも役立つ知識をたくさん学ぶことが出来たと思っています。実際、カウンセリング演習Ⅰの受講生の中には、心理職だけでなく様々な将来を目指している学生がいます。ここでの学びはカウンセリングだけに役立つものだけではないと感じました。



研究紹介 教員インタビュー

林 秀樹 先生

2年 善家百香・長尾芽依

林先生は自分の性格や進路について悩んでいたそうです。そんな時に大学で出会ったのが「精神分析」という学問でした。林先生は自分の心を通して人の心を理解しようとする精神分析の考え方に魅力を感じ、現在も研究を続けておられます。しかし、精神分析の考え方については説明が難しく、周りの人に理解してもらうことが大変だそうです。そこで、林先生は応用の難しい精神分析の考え方をスクールカウンセリングなどに落とし込み、生かした部分を積極的にご発表されています。これにより、林先生ご自身も好きな研究を深めつつ、さらに精神分析の考え方や姿勢、応用の仕方、良さを他の専門家に示すことができるため、やりがいを感じているそうです。



実習大特集

看護学臨床実習・養護実習

心理実習

看護学臨床実習

4年 門脇佳穂

コロナ禍のため、リモート学習を交えた看護実習となりました。リモートではありましたが四肢マヒや小児がんのお子さんのお母様方から日常生活の様子についてお話を伺い、わが子を大切に思う気持ちが伝わってきました。看護技術の実習は、吸引や酸素ボンベ使用など生命維持に関わる内容で、養護教諭は大切なお子さんの命を預かる重みのある仕事だと再認識しました。また、実技場面ではケアを受けるお子さんや見守る保護者の気持ちを意識して取り組みました。この看護実習を通じ、児童生徒はもちろんのこと、保護者の気持ちも推し量れる養護教諭になりたいと強く思いました。このような状況において、貴重な機会を与えてくださった先生方、大学に深く感謝致します。

養護実習

3年 横山詩萌

私は9月6日から10月1日までの4週間、母校の小学校で養護実習をさせていただきました。実習では、救急処置や来室児童の対応、保健教育などの様々な養護教諭の職務を経験し学ばせて頂きました。救急処置や来室児童の対応では、スムーズにいかない時もあり、自分の力のなさを感じることもありました。しかし、養護教諭が担うさまざまな職務を経験させて頂く中で、養護教諭とい



う職業のやりがいを感じることができました。また、困難を抱える児童との関わり方や支援の難しさを感じながらも、様々な先生方と連携して支援していくことの大切さを学ぶことができました。

今後は採用試験に向けて、実習で学んだことをさらに深め活かしながら、努力していきます。

心理実習

3年 松本 遙

心理実習Ⅰでは、心理教育相談室、岡山EAPカウンセリングルーム、岡山産業保健総合支援センター、岡山少年鑑別所にて見学や講義、心理検査の体験等をさせていただきました。各施設の役割とともに各領域で働く心理職の役割や法的義務を理解し、今までの学びが実際の現場でどのように活かされているかを体験的に学ぶことが出来ました。

私は、具体的な援助の知識や技術の理解、様々な職域ごとの心理職の役割の理解、そして、自身の能力の向上に焦点を当てて実習に臨みました。各領域で実際に働かされている心理職の方々のお話を直接お聞きし、質問させていただくことで、座学だけでは得られない多くのことを学ぶことが出来たと思っています。今後は、実習で学んだことを復習し、幅広い知識や技術を修得するための努力を続けていきたいと思っています。



●学科の実習スケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
養護教諭 一種免許状	3年次						養護実習 (4W)						
	4年次	看護臨床実習 (2W) ※2020年12月から2021年12月にかけて細切れで実施											
公認心理師	3年次				心理実習Ⅰ					心理実習Ⅱ			
	4年次												

就職 体験記

今年度卒業する教育心理学科8期生の就職体験記です。
大学で学んだことを活かし、それぞれ社会で活躍されることを期待しています。

教員採用試験

教員採用試験は、受験校種に関係なく、みんなで対策を行ってきました。どんな情報もみんなで共有し、時には先生方からもご指導をいただきながら一緒に頑張ってきた時間は、とても有意義でした。

小川聖李叶 養護教諭（佐賀県）

私は、教員採用試験に挑むなかで、小さなことを継続する難しさと大切さを学びました。私が、本格的に教員採用試験の勉強に取り組んだのは、3年生の11月頃からです。私は、「毎日、何時間勉強する、何ページ進む」と自分の中で決めて取り組んでいました。



しかし、やる気が出て達成できる日もあれば、全く手につかず、焦りを感じる日もありました。不安や焦りを感じながらも、一步步進むことができたのは、先生方に何度も相談に乗っていただいたり、ゼミの友人と実技の練習をしたりとたくさんの方々に支えていただいたおかげです。大学4年間を通して、多くの方々から何度も励みになる温かい言葉をかけていただきました。周囲の方々の支援に感謝しながら、4月からは子ども達を支えケアする立場として、一生懸命頑張っていきます。夢をかなえられるよう応援しています。

中沙由里 養護教諭（高知県）

私が教員採用試験に合格できたのは、同じ養護教諭を目指す友達や先輩、家族、先生方など多くの人ののおかげだと思っています。毎日友達と一緒に勉強をして、わからないところを教え合ったり、試験に出そうな問題を予想したり、時には何気ない会話をしたりして取り組んでいました。先生方には面接や模擬授業などをみていただくだけでなく、不安や悩みを真剣に聞いていただくこともありました。また時には家族と美味しいものを食べに行き、気分転換できるようにしていました。

自分一人の力ではここまで来ることができなかったと思います。様々な人に支えていただき、無事乗り越えることができました。周りの人への感謝を忘れず、春から養護教諭として子どもたちの支えになれるよう精一杯頑張ります。



大野梨子 特別支援学校教諭（愛媛県）

私は、実習やボランティアなどを通して、児童一人一人のニーズにあった教育を行うことができる特別支援学校教諭になりたいと強く思い始めました。

教員採用試験では、長期間に渡って、勉強を続けることの難しさを感じました。その一方で、毎日学びを通じて知っていくこと、理解することが増えていく実感を得られることがとても嬉しかったです。勉強や面接、小論文などの対策に苦勞することもありましたが、乗り越えることができたのは、一緒に教員を目指す仲間の頑張りやお忙しい中、教員採用対策に協力・支援してくださった先生方・先輩方のおかげだと思っています。これから特別支援学校の教員の一人として働くことに対して、不安なことたくさんありますが、大学生活で学んだことを生かし、児童の喜ぶ顔をたくさん見ることでできる教員を目指します。

後輩の皆さん、これから大変なことたくさんあると思いますが、自分のペースを大切に、夢に向かって頑張ってください！応援しています！！



一般企業就職

一般企業就職については、自分が希望する就職ができるよう、友だちやキャリアセンター、時には先生と対策をしてきました。就職活動の中で自分の適性や将来についてしっかり考えることができました。

今西茉莉子

建設業（株式会社大本組）

私は元々建築やアートに興味があり、設計デザインの事務所にインターンとして参加をしていました。このような活動を通じて、私は建物が出来る工程を間近で体験し、街に形として残る建設に関わる職業に魅力を感じるようになりました。本格的に就職活動を始めたのは3月頃からで、少しずつ企業研究や自己分析を進めていきました。就職活動で大切なことは、自分に自信を持ち、周りと比べないことだと思います。また、企業とはご縁だと考えることで、仮に不採用であったとしても「この企業とはご縁がなかったんだ」と次に切り替える力も大切だと感じました。



本学科で学んだ心理学は、就職活動の面接や先輩方との座談会など、人と接する際にとても役立ったと感じています。面接官や採用担当者も同じ人間なので、もし自分が面接官だったらどんな学生を採用したいかな、など相手の立場を考えながら、受け答えができるよう意識しました。

就職活動は気が重くなかなかその一歩を踏み出せないかもしれませんが、人生で自分を売り込むという経験はとても貴重だと思います。乗り越えることができれば、更に自信となり自己成長に繋がると信じています。

自分らしさと笑顔を忘れずに、頑張ってください！

大学院進学

先輩、先生方に相談することや、対策ゼミ、大学院入試の準備がとても大事だと感じました。

石岡真衣

（就実大学大学院臨床心理学コース）

私は3年次頃から大学院入試を意識し、教育や心理施設でのアルバイトやボランティア活動に取り組んだり、山本先生主催の対策ゼミにも参加させていただきました。4回生の時は、主に友達とスタディールームで過去問を解くなどの受験勉強をしました。今年はコロナ感染予防対策で大学施設が利用できないことも多く不安を感じる日が多かったのですが、友だちと電話をしながら勉強をするなど工夫することで、お互いに意識を高めることができて最後までやり遂げることができました。一緒に勉強してくれた友人、アドバイスをしてくださった先輩方、サポートしてくださった先生方、本当にありがとうございました。大学院へ進学後は、講義や実習だけではなくアルバイトやボランティア活動などの様々な実践を通して良き理解者として、クライアントに寄り添うことのできる心理臨床家を目指して頑張りたいと思っています。

大学院進学を考えている皆さん、大学院入試は過去問を解くなど早めに準備をしていくことが大切だと思います。また、友だちと支え合いながら勉強したり、何か困ったときには先生に相談し、一人で悩まないことも大切だと思います。息抜きをしながら進めていってください。夢の実現に向けて頑張ってください。



2021年度 就職状況（令和3年11月時点）

2021年度（2022年度採用）教員採用試験合格実績

養護教諭：6名（岡山県、島根県、鳥取県、高知県、佐賀県、鹿児島県）※延べ人数

特別支援学校教諭：2名（愛媛県）

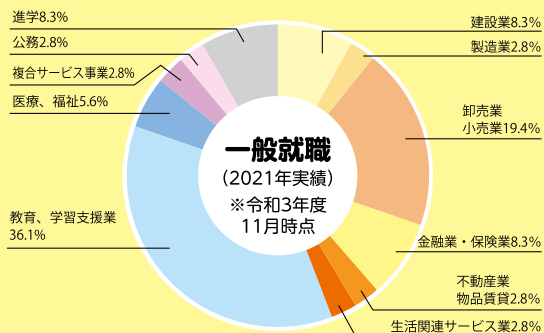
小中学校教諭：3名（岡山県、岡山市、香川県）

本学科卒業生合格率

養護教諭：9名（岡山県、広島県、島根県、愛媛県、高知県）

特別支援学校教諭：1名（岡山県）

小中学校教諭：1名（岡山県）



<https://www.shujitsu.ac.jp/department/kyouiku/kyouikushinri/>

令和3年度学業奨励賞

令和3年度学業奨励として、9名が学業奨励賞を受賞しました。おめでとうございます。



18年度生 左から

小川聖季叶さん 石川 舞さん 青木みのりさん



19年度生 左から

河原奈那さん 若井詩月さん 横山詩萌さん



20年度生 左から

黒瀬睦稀さん 金谷 恵さん 渡邊彩月さん

第14回心理学検定に挑戦しました。

皆さん、おめでとうございます。

特一級合格 富永紗耶加さん(3年)

一級合格 壺井芽依さん(3年)

二級合格 渡部ほむらさん(3年)、友野伽音(2年)

心理学検定は心理学の基礎知識(全10科目)を幅広く客観的に評価する検定試験です。

退職に寄せて

山本 力



就実大学に着任前、病気と共存しながら2～3年ならと移籍を決意。着任してみたら就実臨床の礎となれと5年間の辞令。そして、まだやり残した課題があると2年間の延長。就実大学では同僚に恵まれ、とつとも支えられました。着任時、設置実現を祈念していた「就実心理臨床センター」も見事にできました。私にとって、やり甲斐のある、とても充実した7年の歳月だったと実感します。今年度3月に2回目の定年退職、40年余りの教育研究生活も、もう少しで「しごと仕舞い」です。ところで、世の中には、「主に生活費を稼ぐための仕事」と「主に生き甲斐のための仕事」があるとみなせるなら、臨床心理職は恐らく後者に属す仕事かと思います。私も、心理臨床に係わる生き甲斐を命ある限り求め続けていきたいと思っています。

薦めてくれた北川先生、ありがとう／苦労を共にした臨床心理学コースの先生、ありがとう、ありがとう。／支えてもらった教育学部の先生、ありがとう。／出会った在学生、修了生、ありがとう。／雇ってくれた就実大学、ありがとう。／そして、私の「いのち」よ、ありがとう。

【略歴】1950年姫路城の附近で誕生。広島大学大学院教育学研究科博士課程を修了、博士(心理学)。広島大学教育学部助手。岡山県立大学保健福祉学部助教授。岡山大学大学院教育学研究科教授。2015年就実大学大学院教育学研究科 教授。

2021年教育心理学科ニュース

- ・森口准教授らが小児がん教育のために制作した絵本などを教材にして就実小(5年生)で指導したことが山陽新聞に掲載されました。山陽新聞：2月10日付
- ・鈴木教授が執筆した『認知能力と学習(ふたご研究シリーズ 第1巻)』が出版されました。監修：安藤寿康 出版社：創元社 刊行：2021年2月25日
- ・林講師が、子ども記者から取材を受け、臨床心理士の仕事に関する記事が山陽新聞に掲載されました。山陽新聞：2021年4月24日付
- ・石井助教が執筆した『これならわかる(スッキリ図解)精神保健福祉制度のきほん』が出版されました。出版社：翔泳社 刊行：2021年7月20日
- ・永田准教授が、認知・行動療法学会の認知行動療法スーパーバイザーとして認定されました。
- ・森村准教授らの研究グループが一般社団法人日本体力医学会第34回日本体力医学会学会賞(体力科学)を受賞しました。：2021年6月

2021年度 教育心理学科 行事報告

4月1日 入学式・学年はじめ

4月2日～7日 オリエンテーション

4月9日 前期授業開始

4月23日 新入生歓迎会(研修旅行代替)

5月15日 オンライン授業移行措置

6月20日 オープンキャンパス(オンラインLIVE配信)

6月28日 対面授業再開

7月17日・18日 オープンキャンパス(ハイブリッド形式)

8月21日・22日

9月18日 オンライン教育・就職懇談会

9月22日 後期授業開始

9月30日～ 3年次ゼミ決め期間
10月30日

10月16日 第56回就実大学・就実短期大学オンラインなでしこ祭

11月15日 教育実習体験報告会(保健)

11月20日 教育心理学科10周年記念講演会(就心会・キャリア共催)

12月1日 養護実習報告会

2月10日 第8回卒業研究オープン発表会・茶話会

3月12日 オープンキャンパス

3月20日 卒業式

就心会記事係：片山悠花、小坂文乃、善家百香、長尾芽依、中山采由、根本若奈、樋口円香、藤原晴香、藤原未帆、由藤一葉(2年)
井登菜々美、大西明日海、岸下留衣、後藤優月、住田萌々華、中井歌楓、中川花琳、宮武春菜、山下真耶(1年)
広報委員：永田 忍、森村和浩、石井佳葉